

島根大学生物資源科学部



附属生物資源教育研究センター

Education and Research Center for Biological Resources



島根大学生物資源科学部 附属生物資源教育研究センターとは



センター本部(本庄)

人と生物の共生・共存を目指して



演習林(三瓶)



実習船(隠岐)



茶園(本庄)



臨海実験所(隠岐)

「森林」・「耕地」・「海洋」を総合的に捉えた実践的教育研究、生物資源枯渇への対応、環境破壊への対応

生物は、すべて他の生物の生命活動に依存して生きている。人間もまた地球上の生物種の一つであって、多様な生物からなる生態系に依存して食糧を確保し、快適な環境を得ている。それらの人間活動は、生態系を通じた物質循環をなしている。物質のスムーズな循環こそ生態系の健全性を保証し、生活環境、生産環境など健全な環境の維持及びより望ましい環境の創出にとって欠かせないものである。すなわち、人間活動は、他の生物との「共生・共存」の思想に基礎を置くことが必要である。



演習林(三瓶)

生物資源教育研究センター

『生物資源教育研究センター』は、設立の母体となった附属演習林、附属農場及び附属臨海実験所がそれぞれ果たしてきた従来の機能を維持・継承するとともに、部門間の密接な協力関係を実現し、学部・学科教育と相まって、森林・耕地・海洋が一体となっている生態系の仕組みを解明することによって、それら地域圏における生物生産活動として具体的な課題の展開を図り、人間活動の健全性を維持し、健全な環境を保全、創出する術を教育・研究する施設である。

森林科学部門

森の恵みと人の営みの調和（ハーモニー）

森林科学部門は、森林の生産力を持続的に、最大限に発揮させることを目的に林学・林産学に関する教育・研究を行うとともに、流域生態系の上流部に位置する森林の自然環境の保全に関する教育・研究を展開します。当部門は、森林資源管理学と森林環境保全学の2分野で構成されています。

森林資源管理学分野

「演習林」がこれまで行ってきた内容を継続しつつ、持続的な森林資源の利用のための森林施業、地域森林計画などの維持・管理に関する教育・研究を行います。



森林環境保全学分野

森林生態学、森林立地学、森林防災学などを基礎として、森林の持つ環境機能の保全・利用などに関する教育・研究を行います。



農業生産科学部門

人類の生存と生活環境を守る “みどりの大地”

農業生産科学部門は、『生産性の向上』と「よりよい自然環境の創出」を一体的な課題として据えた科学と技術の教育・研究をフィールドを中心として行います。

当部門は、農業生産技術学と耕地環境管理学の2分野で構成されています。また、当部門には、農業生産学科生産技術管理学講座の教員(兼任教員)が常駐しており、センター教員とともに教育・研究を行います。

農業生産技術学分野

安全、多収、高品質の食料生産や生活に豊かさと潤いを与える花卉等の観賞用植物生産のために新しい栽培技術や作業技術の開発、実証とこれらの技術の体系化、総合化を図ることを目的とした教育・研究を行います。

耕地環境管理学分野

作物の栽培環境を最適にするための生産環境管理技術、また、耕地における生態系の保全と生産性との調和を図るための耕地環境管理技術の開発とその実証を目的とした教育・研究を行います。



海洋生物科学部門

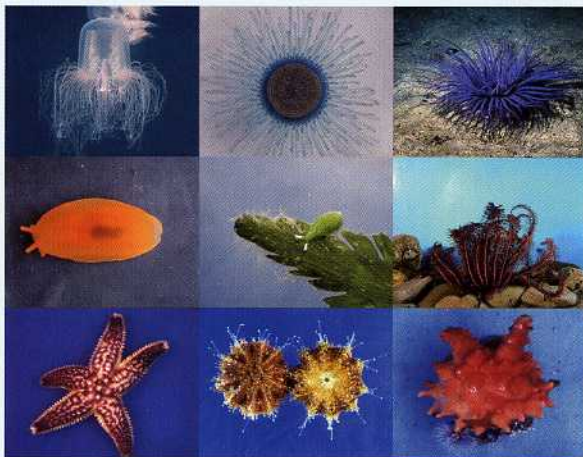
海洋生物科学教育・研究の拠点

海洋生物科学部門は、海洋生物科学の基礎的な教育・研究とともに、基礎を踏まえた応用海洋生物科学の実証的・実践的な教育・研究を行います。当部門は、海洋分子生物学と海洋生態学の2分野で構成されています。

海洋分子生物学分野

海産無脊椎動物の生理・行動・光感覚の基礎的研究が行われている。またフィールドに隣接した臨海実験所の特性を生かして、最近問題になっているクラゲ類の大量出現の原因究明についても関心を寄せている。

教育面では臨海実習を行っており、海洋生物の生理行動と生態との関係を、直接生き物に触れることにより実感として理解してもらうように努めている。



海洋生態学分野

海洋生態学に関する教育・研究を行うとともに、海洋全体の生態系にも重大な影響を持つ沿岸域生態系の解析や生物資源としての海洋生物に関する教育・研究を行います。

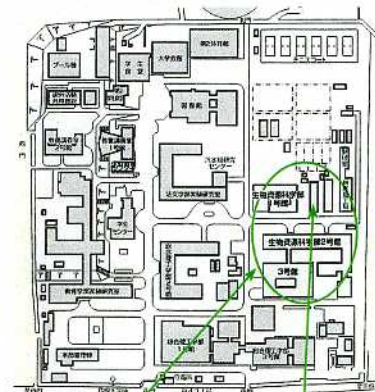


センター案内図

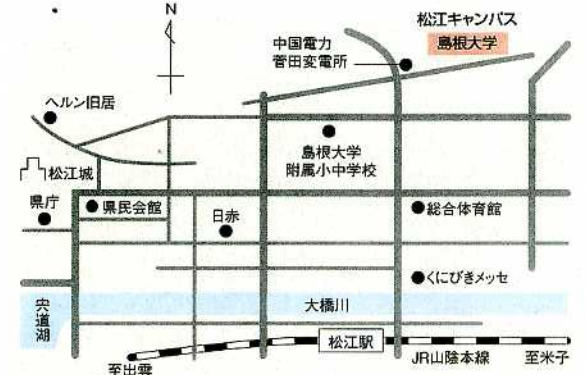
神西砂丘農場 (出雲市)



島根大学



生物資源科学部 林産加工場



隠岐臨海実験所



隠岐の島町



松江試験地

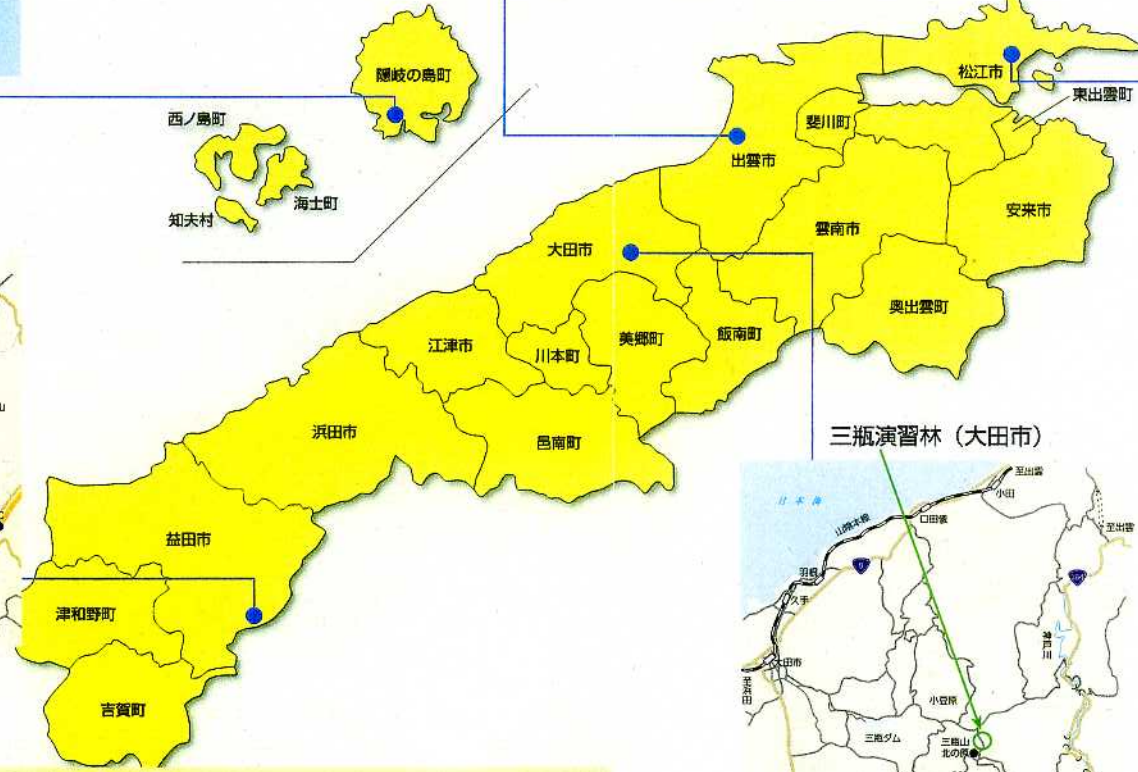


本庄総合農場

匹見演習林 (益田市)



三瓶演習林 (大田市)



島根大学 (川津地区) からの距離

| | | | |
|----------------|-------|----------|------|
| ●三瓶 (多根地区) 演習林 | 85km | ●本庄総合農場 | 6km |
| ●三瓶 (角井地区) 演習林 | 80km | ●神西砂丘農場 | 45km |
| ●匹見演習林 | 220km | ●三瓶山麓農場 | 85km |
| ●松江試験地 | 15km | ●隠岐臨海実験所 | 77km |

沿革

| | | |
|-------|-----|---------------------------------------------|
| 昭和22年 | 9月 | 島根県立農林専門学校 |
| 24年 | 4月 | 文理学部設置 |
| 26年 | 4月 | 島根県立島根農科大学 |
| 40年 | 4月 | 農学部設置(島根県立島根農科大学の国立移管) |
| 43年 | 8月 | 農学部附属演習林(匹見、三瓶、松江)、同附属農場(本庄、神西、三瓶) |
| ~45年 | | 土地・建物寄附(島根県立島根農科大学の国立移管) |
| 48年 | 3月 | 文理学部附属隠岐臨海実験所設置 |
| 53年 | 6月 | 理学部設置(文理学部改組) |
| 平成7年 | 10月 | 生物資源科学部設置(理学部、農学部改組) |
| 9年 | 4月 | 附属生物資源教育研究センター設置(附属演習林、附属農場、附属臨海実験所転換) |
| 16年 | 4月 | 国立大学法人設立 国立大学法人島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター |

大学公開

生産物 農場・演習林の生産物は実習や研究に用いられるだけでなく、その生産成果を広く一般社会に理解してもらえよう、販売されています。野菜・果物などは新鮮なことから好評を得ています。また、長期保全できるよう加工品も製造しています。

【主な品目】

春……………煎茶、トマト、イチゴジャム
夏……………ぶどう、梨、ブルーベリージャム
秋……………柿、米、白菜、大根、りんごジャム、ごぼう
冬……………ゆずジャム、キウイ、さつまいも
年中……………トマトジュース、番茶
その他……杉板、丸太材

開放日 毎月第1土曜日(6月から12月(11月を除く))
4月中旬 春の農場まつり
11月第1土曜日 秋の農場まつり

公開講座 各種公開講座を実施しています。
平成17年度開講講座

- ブルーベリーの育て方・楽しみ方
- 味わって考える食と環境
- 農作業で旬を感じよう
- 楽しいイモ掘り体験





学 章

総合大学として飛躍し、発展する島根大学を
日本海の青色のUで、知性を愛し感性を育む
学問の探究を茜色の扉と本で象徴しています。

●センターに関する問い合わせ●

島根大学生物資源科学部

附属生物資源教育研究センター附属施設係

〒690-1102 松江市上本庄町2059 TEL(0852)34-0311

<http://ufsu.life.shimane-u.ac.jp/ercbr/>